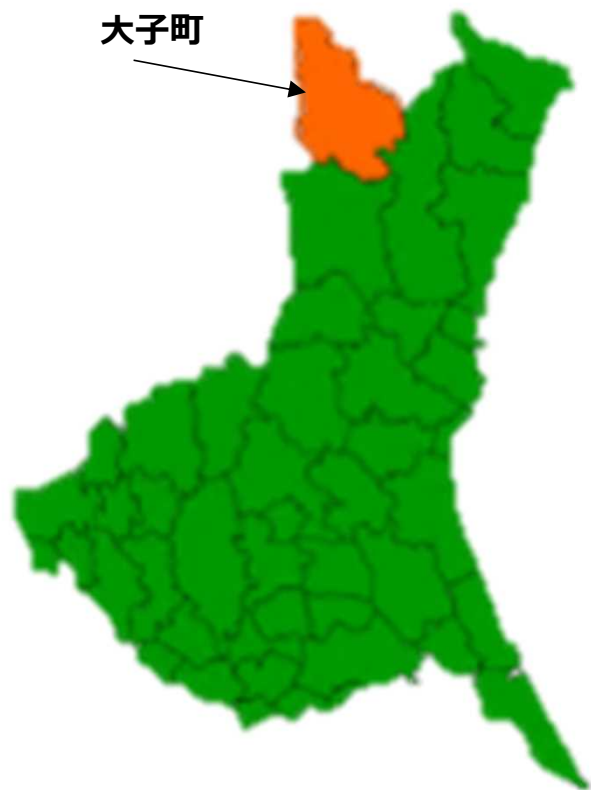


大子町近隣の皆様へ

“さあ、始めよう牛で町おこし、目からうろこの放牧の取り組み”

耕作放棄地解消は手軽な(牛の放牧)手段が最も有効です。



【放牧】（茨城県大子町 大子町和牛繁殖活性化クラスター協議会）

- 大子町は県銘柄牛「常陸牛」の県内最大の産地であるが、農家の高齢化率・耕作放棄地率が県内で最も高く、後継者不足などから子牛出荷頭数は減少傾向。その様な中、イノシシ等の獣害が多発し、耕作放棄地が増大している。
- 平成16年、大子町和牛繁殖活性化協議会を設立、その後大子町和牛繁殖活性化クラスター協議会と名称変更し、耕作放棄地対策及び繁殖雌牛増頭対策として放牧を推進。平成30年度から畜産生産力・生産体制強化対策事業（肉用牛・酪農基盤強化対策（放牧活用型））に取り組んだほか、重機を用いずに稲WCSを活用し、冬季屋外飼育でも健康な子牛を生ませることが可能な黒毛和種繁殖雌牛低コスト飼養技術（大子方式）の導入。
- 令和2年には、放牧農家戸数は27戸、放牧面積は41ha、放牧頭数は260頭と放牧面積・放牧頭数が増加。耕作放棄地解消と景観の維持にも貢献している。
 今後はCBS（キャトルブリーディングステーション）を活用し、分娩間隔の短縮と増頭を推進予定。

放牧の状況

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
放牧戸数(戸)	13	21	23	26	27	27
放牧面積(ha)	16	24	31	35	38	41
放牧頭数(頭)	73	113	201	220	249	260

大子町の和牛飼育状況

	飼養戸数	飼養頭数	1戸当たり飼養頭数
H27年度	131	901	6.9
R2年度	110	899	8.2
比率	84%	99%	120%

放牧により得られる効果：「牛の力を借りて、一石三鳥 モウ～それ以上かも」牛さんに感謝 ありがとう!!

- ① 地域の景観維持 ② 獣害防止 ③ 畜産農家の省力化生産コスト削減 etc

大子方式について

稲WCSを活用し、冬季屋外飼育「冬季放牧」でも健康な子牛を生ませることが可能な黒毛和種繁殖雌牛低コスト飼養技術（大子方式）の導入。

らくらく給仕くんを利用し、稲WCSを与えている。
これを利用することにより、散らかさないで無駄を省く



雪の中でも屋外で元気に運動している。
濃厚飼料を若干増量している。



放牧場設置前後比較

【放牧前】



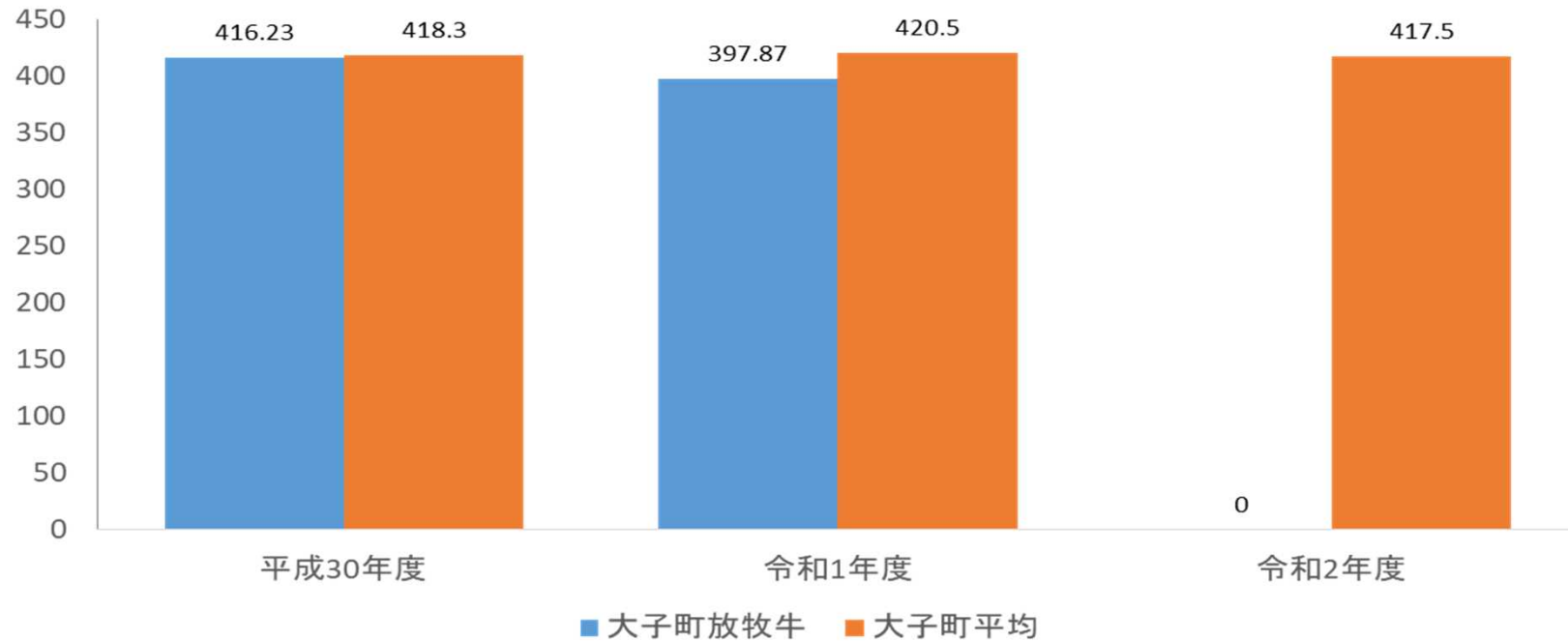
【放牧後】



(地域住民及び放牧実施者の声)

- ① 耕作放棄地が解消され、景観がきれいになり獣害も減少し、作物を作れるようになった。
- ② 放牧地に牛がいることで、草を食べている姿を見ていると心が癒される。
- ③ 脱柵が怖く放牧をためらっていたが、実際に放牧してみてそのようなことが起こらないで良かった。
- ④ 舎飼いと違い管理が楽になり、牛に活気があり毛つやも良く元気に草を食べている姿は頼もしい。
- ⑤ 放牧することで、牛の分娩も軽く子牛も元気に生育している。
- ⑥ 放牧することで、牛舎が空きその分牛を増頭できたことが良かった。
- ⑦ 放牧に対しての理解を、他の住民の方にも更に広げられれば良い。

分娩間隔

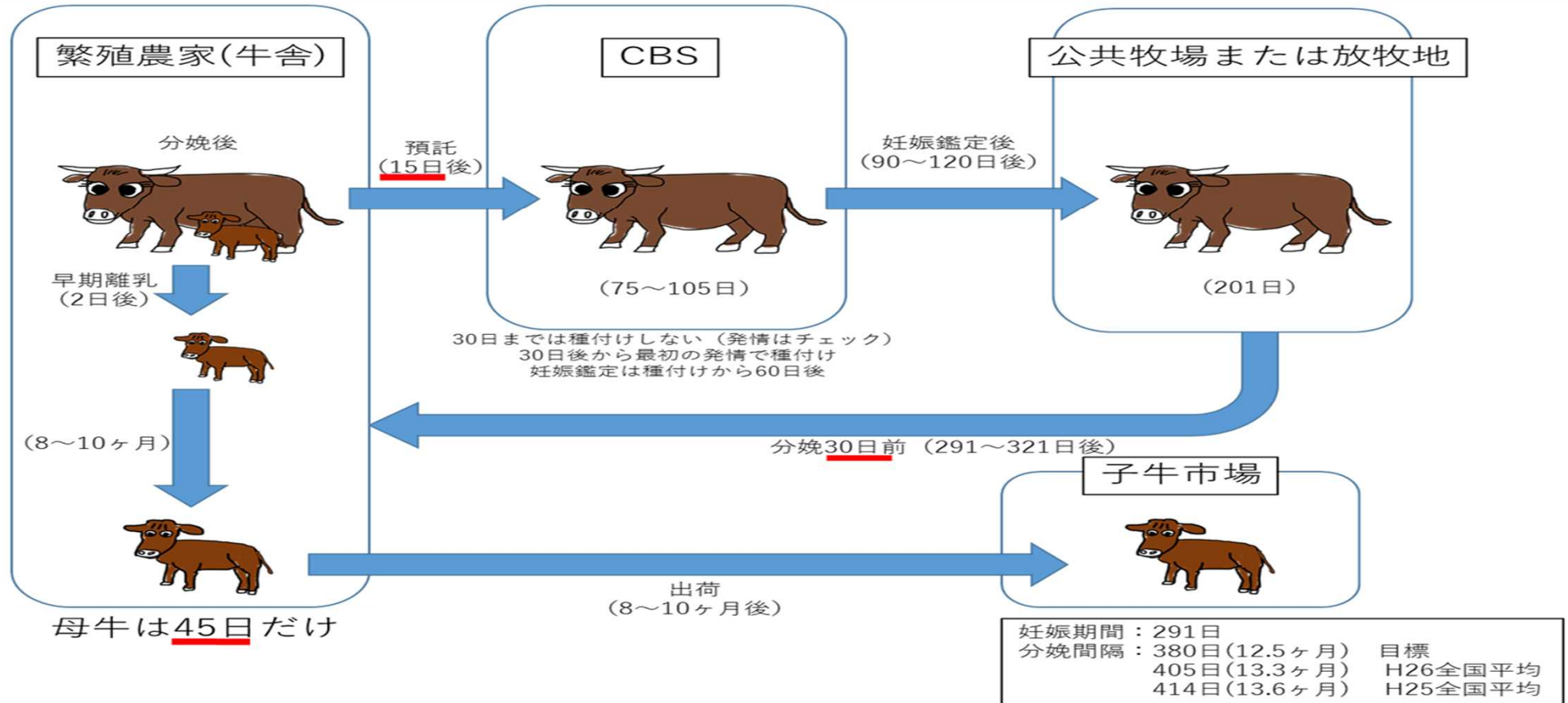


※令和2年度導入大子町放牧牛は、未経産又は1産のみのため数値は0

導入年度	大子町放牧牛	大子町平均
平成30年度	416.23	418.3
令和1年度	397.87	420.5
令和2年度	0	417.5

・分娩間隔は放牧牛の方が短くなる傾向にあり、繁殖成績も良好である。

キャトル ブリーディング ステーション(CBS)を活用した場合の分娩間隔および飼養場所



【お問い合わせ先】

〒319-3521 茨城県久慈郡大子町北田気388

大子町畜産農業協同組合内
大子町和牛繁殖活性化クラスター協議会

☎ 0295-72-0489 FAX 0295-72-0549